

第1章

子育て・子育てエンパワメントへの根拠に基づく支援の意義と方法

第1節 根拠に基づく支援の基本

根拠に基づく支援に大切なこと—それは「**プロ魂**」に基づく「**プロ技**」。

すなわち「**根拠を見据える**」、そして「**根拠を活かす**」**プロ技**である。

プロ魂(プロとしての哲学(考え方))：「どんな時でも子どもと保護者の最善の利益を守る」という強い信念。子どもの育つ力、保護者の子育て力、地域や社会の子育て力をエンパワメント(力を引き出す、元気にする)、すなわち「育つ力と育てる力をはぐくむ支援」に最大限の力を発揮すること。

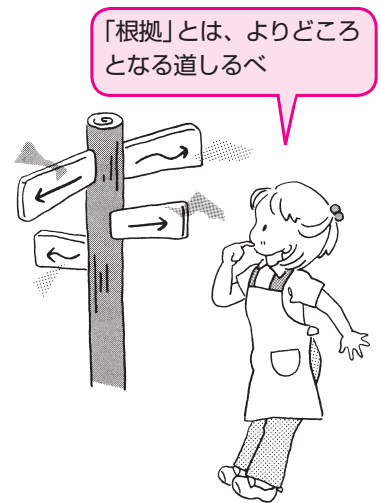
プロ技(プロとしての知識と技術)：「科学的な根拠」と「経験的な根拠」に裏付けられた豊かな知識と技術。プロ技を発揮するための、「**論理的な支援設計**」と「**さまざまな支援ツール(道具)を使いこなす**」ことができる。

保育園、幼稚園、総合園など、子育て・子育て支援への期待は高まる一方である。子どもも保護者も社会も、**プロ技**に基づく情報と支援を求めている。

多様なニーズに対応するため、これまでの個別のかかわりの枠を越えて、さまざまな専門職のチームワークが必要となる。そこで必須なのが、領域を超えた専門職間の「**共通言語**」、すなわち「**根拠に基づ**

く**技術**」である。

「**根拠を見据える**」、そして「**根拠を活かす**」**プロ技**を発揮するには、支援の流れに沿って次の3つの**技術**が必要になる^{4,5)}。



根拠に基づく3つの技術

1. 子どもや保護者、社会が訴えたり表現したりすること(「**主訴・サイン**」)から「**真のニーズ**」を見極める**技術**。
2. 真のニーズから子どもと保護者、社会に「**もっとも適切な実践**」を実施する**技術**。
3. 実践を「**評価**(本当に効果があったのか?)」して、さらによりよい実践に生かす「**フィードバック**」**技術**。

もう少し詳しく見てみよう(図1-1)。

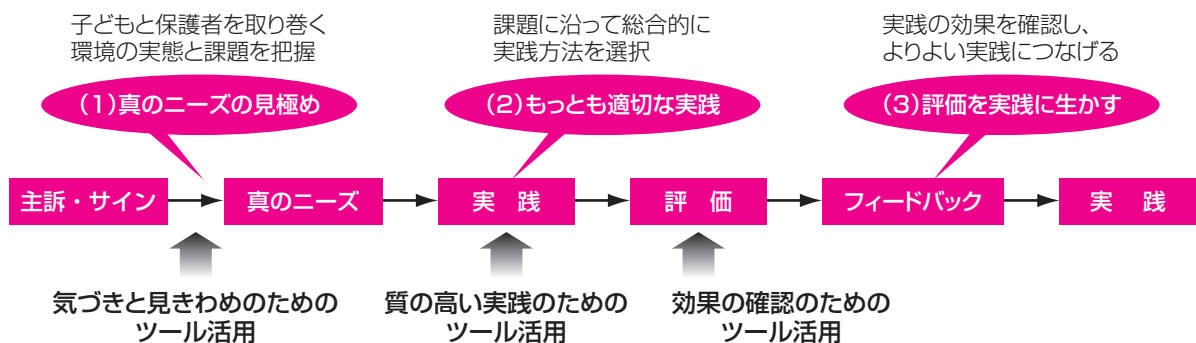


図1-1 実践の質を高める専門技法

1. 子どもが行動や言葉で示すこと、保護者が訴えることは、そのままが「真のニーズ」ではない。その奥に「真のニーズ（本当の思いや願い）」が隠れている。「カン」や「経験」のみに頼るのではなく、専門的な知恵を集めた共通言語としての「**根拠に基づくさまざまなツール**」などを使って、他の専門職と共有しながら「真のニーズ」を見極めることができる。
2. 真のニーズが見極められれば、それに沿って「**もっとも適切な実践**」を、自信を持って選択して実施できる。
3. 実施した後「本当に効果があったのか」、きちんと子どもと保護者、社会に説明できること、よりよい実践に活かす。そのためには、「**根拠に基づくツール**」を使い、何が変わったのか、何は変わらなかったのか、もっとどうしたらいいのか、他の専門職と共有しながら一緒に考える。
4. 専門職としての技術はさらに磨かれて、保育の

質が向上し、子どもと保護者の最善の利益をよりいっそう守ることができる。

この支援の流れを「**確実**」に、そして「**継続的**」に実践することで、根拠に基づく支援が実現する。

そのためには、どのような具体的な技術が必要だろうか？

まずは次の2点を習得することが重要である。

確実で継続的な支援に向け必要な技術

1. 支援を論理的に設計し、根拠に基づく実践を継続的に実現できる。

→**根拠に基づく支援設計**

2. さまざまな側面を捉える複数のツールを使いこなし、根拠に基づく支援を確実に実現できる。

→**根拠に基づく支援ツールの活用**

次節からこれらを具体的に解説する。

第2節 根拠に基づく支援の設計法：エンパワメント支援設計の作り方

根拠に基づく支援には、保護者や他の専門職などを含め、だれもが納得する支援の「**道筋**」と「**根拠**」を示す必要がある。これを「**支援設計**」という。子育てと子育てをエンパワメントするための設計図を専門職が共有することで、みな「**共通の視点**」を持って「**確実で継続的な支援**」ができる。

ここで重要なのは、子どもと保護者の「**真のニーズや意向**」を反映しながら、**エンパワメント**を実現する支援の設計図を作ることである。この設計図では、目標を実現するための論理的な手順を、専門職はもとより、保護者を含めてだれもが共有できる形で作成する。保護者のパートナーシップと参加意欲を大切にしながら、一緒に目標と課題を見極め、確実な支援を提供する。

本節では、論理的に支援を設計するために、「**エンパワメント支援設計**」を用いた整理のしかたを紹介する(表1-1、図1-2)。

この方法の特徴は、目標に向かってなぜその支援が必要なのか、「**道筋と根拠**」を明らかにできることである。支援の目標をどのように実現するのか(方法)、どうしてそれが正しいのか(根拠)を、論理的に明確にすることができる。

具体的には、次の6つのステップに沿って順に整理する(表1-1)。



エンパワメントの視点